

「ハシナガイルカを連れたミナミハンドウイルカ」

2015年8月7日、島内のガイドさんからOWAに一本の電話がかかってきました。瓢箪島の近くで、ハシナガイルカの新生児と思われる個体を連れたミナミハンドウイルカを見つけたとのこと。実はこうした現象が見られるのは、2013年、2014年に引き続き、3年連続！！

これまでの観察例では、子供は死亡あるいはすぐに見られなくなっていました。今回はこれまでとは違う今年の観察記録をお伝えします。

最初の発見から、一週間ほど経過した8/14。ガイドさんから見せてもらった写真を確認すると、これまでと違う個体が、この子イルカを連れていきます。個体識別をしたところ#19であることが判明。#19は2003年から毎年父島周辺で見られ、2012年8月には初めて子供を出産したメスのイルカです。2013年7月にはハシナガイルカの子供を連れていた観察例があり、さらにこの時死んでしまった子供を運ぶような行動も観察されました。

今回の子イルカですが、現在確認している最後の発見記録は9/29。この間に小笠原諸島には、3つの台風が接近しましたが、台風通過後も元気な姿を見せていました。

目撃した方からの話を聞くと、一緒に泳ぐ#19からお乳をもらおうとして、しきりに乳溝のあたりを突っついたり、#19にずっと寄り添って泳ぐ姿が確認できたようです。これだけの期間、元気に泳いでいたことを考えると、#19のお乳を飲んで育っていたと考えて間違いないでしょう。

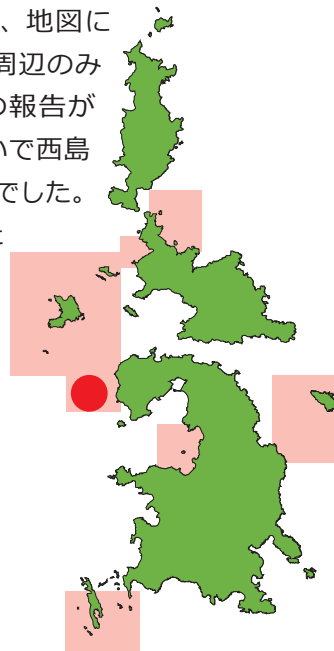
この子イルカの発見場所は、地図にピンク色で示した父島列島の周辺のみに限られていて、最も発見の報告が多かったのは南島周辺で、次いで西島や瓢箪島、東島や石浦の東側海域でした。

最後に子イルカが目撃されたのは、地図の赤丸で示した場所(ウェザー下)で、これまで子イルカを連れていた#19の姿は確認できなかったようです。

代わりに子供を連れていたのは、個体識別の結果#296であることが分かりました。このときの動画を確認しましたが、子イルカは以前より元気が無いように見えました。今回の観察期間は52日間とこれまでで最長です。

同様の事例について、文献等を調べている途中ですが、今のところ長期に渡って観察されている例はありません。特に野生下において、異種の子を育てるというのは、非常に珍しい事例となります。いったいイルカ社会に何が起きているのでしょうか？

引き続き、このようなイルカを発見した場合には、是非OWAまでお知らせください。よろしくお願いします。



子イルカと一緒に泳ぐ #19



子イルカと一緒に泳ぐ姿が
確認された #296

